



晴れわたった夏の日
赤松の林、花壇の花々
湖の船着場で釣り糸を垂れる

郊外のリハビリセンターで
ゆったりと過ごす患者

一室では院長を中心に
話し合いが続いていた

高汚染のこの地域から
住民達は移住していった
けれど、なお故郷を守り
故郷で生きる人たちの熱い思い

第90次訪問団報告

今、チェルノブイリと関わる意味を見つめる



ベトカ地区病院のナジェージダ院長は、外来にやってくる子どもたちも、埋葬の村に住むおじいちゃんも、地区に暮らす人々皆を、両腕で抱えている。放射能危険の立て札がいたる所に立つベトカ地区で、住民に寄り添って、懸命に人々の健康を守っている。

目次

第90次訪問団報告	事故から22年…	
今、チェルノブイリと関わる意味を見つめる	いまだに残る高汚染地の病院を訪ねる<鎌田實>	6
	歩きながら	12
	幼い私が支援した国	
	ベラルーシを訪ねて <五十嵐ゆみ子>	16
	鎌田先生のジュネーブ講演会とバイオリニストの涙	
	<猪又由加>	19
ジーマさん招聘研修	ジーマさんからもらった勇気<加藤あかね>	20
	いつか直接ロシア語で話したい<森ひろの>	23
イラク現地報告		
ラマダーンが明けて	祖国で生きていく希望を失い始めた人々に…	
	<加藤文典>	28
	イラクの子どもたちしえんCD	33
	イラクの現状報告と今後の活動 <佐藤真紀>	34
連載&お知らせ		
	ベラルーシの食卓	38
	モスクワ便り	39
	連載随筆「協働態の世紀」 <宮尾彰>	40
	ロシア小話	42
	振替用紙のメッセージから	44
	ありがとうございました!	46
	ナジェージダ2008	48
	支え合って21世紀◆新しい会員制度◆	49
	Здравствуйте! (事務局広場)	50
	カルチャーレビュー	52
	インフォメーション	54

事故から22年…

いまだに残る高汚染地の病院を訪ねる

理事長・鎌田實

8月10日、日本から12時間のフライトでフランクフルトに着いた。

フランクフルトで一泊した翌早朝、ベラルーシ共和国へ向かった。ミンスクの飛行場に降りると、現地事務局のイリーナさん（ネコちゃん）と、なじみの運転手アナトリーさんが待っていてくれた。時速120キロで飛ばして約4時間、ゴメリ市のツーリストホテルに着いた。

17年前の1月、雪の夜。ぼくたちは同じようにホテルを目指していた。スパイクタイヤもスタッドレスタイヤもない。ノーマルタイヤのまま、時速100キロで飛ばした（ここでは今でも冬の雪の中を、ノーマルタイヤで走る車が多い）。途中、車のフロントガラスが割れた。凍え死にそうになりながら、命からがらホテルにたどり着いた。冷えきった体を温めようと裸になってシャワールームへ飛び込むと、お湯は出なかった。水しか出ないのである。唾然とした覚えがある。

それ以来このホテルを利用している。以前はゴメリ州執

行委員会の計らいで、JCFの支援活動を支えるために、規定の外国人料金の約1/10の宿泊費で泊まらせてもらった。移植などをする時は、医師、看護師、メディカルエンジニア、支援スタッフ等15人くらいの医療チームで泊まった。お金のない小さなNGOにとっては大助かりだった。最近三ツ星ホテルになったという。17年前に比べると表面的にはだいぶ綺麗になった。しかし、変わっていないからである。シャワーのお湯がでない。17年たっても、ホテルのシャワーは変わらなかった。当時、トイレの便座はどここの部屋にもなかった。今は、便座の心配は無くなった。進歩していることもある。

夜の町でばったりコトフさんの娘ナターシャに出会った。小さな二人の女の子を連れとお母さんになっていたから、びっくりした。彼女は以前精密検査のために来日したこともある。

コトフさんはゴメリ州執行委員会の重鎮、放射線防護委

員会のトップだった。JCFの活動を現地側から応援してくれた。大変お世話になった。ホテル代を安くしてくれるよう交渉してくれたのもコトフさんだった。ベラルーシ保健省、ゴメリ州執行委員会、ゴメリ医科大学、JCFの共催でチェルノブイリの健康被害の学会を1994年に行っ

た。会場の手配、参加者の招待とプログラム作り、JCFはコトフ

さんと共に取り組んだ。ゴメリ医科大学の学長を説き伏せ、保健省の当時の大臣を呼び、ベラルーシだけでなく、ロシア、ポーランド等の研究者を招けたのもコト

フさんの力が大きかった。信州大学から甲状腺を専門にする飯田教授（当時）、小児科の小宮山教授（現信州大学学長）にも出席してもらった。子どもたちの健康被害についてのシンポジウムを行った。放射能の高汚染地域チエチエルクとの連携をとってくれたのもコトフさんである。乳がんが亡くなった小児科病棟の部長、タチアナ先生と同じように、原発事故の放射線被害に対して戦い、JCF活動を支えてくれた立役者の一人である。そのコトフさんも10年ほど前に亡くなった。歳月の流れを感じずにはいられない。

チエチエルクを訪ねた。新しい病院長が3週間まえに就任していた。JCFが寄付した新しい超音波の機械は1日18〜25人を診断し、大活躍していた。応援してくれた日本の皆さんのおかげです。感謝します。

新院長はゴメリ州



左から、鎌田理事長、チエチエルク地区病院新院長



ナジェージダ募金でチエチエルク地区病院に寄付したエコー

立病院の副院長をしていたようだ。有能な管理者にみえた。ルカシエンコ大統領の体制の下、指名された院長なので、本当に信頼できるカウンタートパート（国際協力や国際的な共同作業などを行う際、現地での受入れを担当する人や機関）かは、慎重に見てないといけないと思った。

映画「ナージャの村」のナージャのお母さんに会った。ドゥチ村から引越して、チエチエルスクの地区病院の裏に住んでいる。お酒が大好きだった夫は5年前に亡くなったそうだ。ナージャはゴメリ市で洋服を作る工場に働いているという。時の経つのが速いなと思った。三女は結婚して一児の母となっていた。ソージ川河畔の家を改修して住んでいた。生活は厳しそうである。

今回の旅の最大の目的地、ベトカを訪ねた。この地域は放射能汚染度の高い地域だ。

ベトカ地区病院のナジェージダ院長は、まるでタチアナ先生の妹分のような空気を持った人だ。一瞬、タチアナ先生の幻影をみたような気がした。

ナジェージダ先生は、JCFが昨年のキャンペーンで寄付した保育器を嬉しそうに見せてくれた。もともと産婦人科医である。出産で未熟児が生まれた時のために、どうしてもほしかったという。ベラルーシ全体で4つしかない優

れた保育器だ、とうれしそうに語ってくれた。

ベトカの地区病院には35名の医師がいる。チエチエルスクの地区病院の医師は30名。ベトカの病院のほうが活気にあふれていた。脳卒中や整形外科の患者たちが2週間半ほどのリハビリ入院をする施設となっている分院を案内してくれた。5名の医師がいた。医療費は無料だ。

ナジェージダ先生は、その他に15の診療所を管理している。うち2つの大きな診療所には医師が2人ずつおり、残りの13の小さな診療所には、フェイシエルという専門家が配置されていた。看護師資格を得た後、もう1年勉強するそうだ。医師と看護師の間のようなライセンスである。

1人のフェイシエルが2つの診療所を持ち、1日に10〜20人の外来患者を診ている。医師と相談しながら薬を投与することもできる。午後は往診し、健康指導をする。アルコール依存症の患者の生活指導をしたり、高血圧の患者の血圧を測って歩いたりしている。

ぼくたちは、長野県で、保健師さんを中心とした健康づ



埋葬の村に住むサマシオールに話しかけるナジェージダ医師



ベトカ地区病院ナジェージダ医師

くり運動をやってきた。似ているなと思った。日本の保健師よりもっと色々な権限をフェイシエルに与えているみたいだ。なかなか良いシステムだと感じた。

ベトカの町はかつて4万人が住んでいた。今は2万人だ。真ん中に60〜100キュリー以上の汚染が残された森がある。人の居住区域が分断されている。人が全く住めない埋葬の村がいくつもあり、そのうちの2ヶ所には、国の立退の指示に従わず放射能の汚染地域に残って生活しているサマシオールと呼ばれる人たちがいた。それぞれの村に9人と2人のサマシオールが住んでいるという。

9人の村を訪ねた。ナジェージダ先生の患者がいた。ナジェージダ先生の顔を見ると、おじいちゃんはおバツの悪そうな顔をして、タバコを隠した。ナジェージダ先生はそれを見つけると「吸わない約束だったじゃない」とニコニコしながら言った。イアツ的でないのだ。瞬間、いい医者だなあと考えた。

彼女は病院を歩いている時も、常に患者に声を掛けたり、スタッフの背中に手を当てたり、診察中の若い女医を激励したり、院長としてなかなか優れたリーダーシップを見せていた。彼女より10歳くらい年上の医師の診察室にもつかつかと入っていく、外来風景をみせてくれた。年上の医師もナジェージダ先生に対しては尊敬の念を持っているよう

である。

掃除のおばさんもぼくに、「院長はすばらしい人だ」と声をかけてきた。笑いながら「命がけて仕事しています」と言う院長は、やはり夕チアナの生まれ変わりのように見えた。

埋葬の村で、おじいちゃんと立ち話をしていると、次々と村の年寄り達がやってきた。森の中でキノコやベリーをとっているという。院長が危険なので止めなさいと言うと、バツの悪そうな顔を

した。
ベトカの地区病院でホールボディカウンターで測定した。神谷さんもぼくも正常だった。この地区では体内被曝線量の高い人が多い。昨年は56名の市民が、今年はずでに半期で24人、新しい高汚染者が見つかった。高汚染者たちは年2回



ホールボディカウンターで体内被曝量を計測する神谷事務局長

の詳しい検診を行いながら、癌の早期発見を心がけているという。慎重にフォロワーしている。なかなかのシステムを作り出しているように思えた。

院長は大人の甲状腺癌が増えていると心配していた。いろいろの癌が相変わらず多い。南と北に二分された居住区域をナジェージダ先生はいったりきたりしながら、本院と分院と15の診療所を管理している。

南北の村は放射能の汚染はそれほどひどくないと言われているが、15〜40キュリーの範囲の中で汚染されていた。安心して生活できる数値ではない。汚染が40キュリーを越えた土地の住民は、強制疎開させられるが、40キュリー以下の土地では、そこに住むかどうかは自分で選択ができる。多くの市民がそのままの生活を選んでいくという。ここで生活せざるを得なくて残った人がいる以上、できるだけ良い情報を流して生活指導をしながら、少しでも被害を少なくするよう食い止めるのが医療の役割なのだろう。ナジェージダ先生は実に優れた仕事をしていると思った。

地区病院と分院を見学し、埋葬の村を見た後、ナジェージダ先生のダーチャ（別荘）へ行った。病院の婦長がお昼ご飯の準備をしていてくれた。すばらしいご馳走である。スタッフたちがナジェージダ先生を信頼し、色々な面で

支えていることがよくわかった。事故から22年経った今も放射能の汚染が残っている所がある。それに対して情熱的に市民を守ろうとしている地域医療があることもわかり、カウンターパートとしては最適な人と場所をみつけたように思った。

今後、南北の村の人々の生活を観察していくと共に、高汚染地の森や失われた村、そしてその村に残っている人々の心や体のフォロワーをしていくことが大事だと思う。



ナジェージダ医師のダーチャでのお昼のご馳走

相がこの国を投げ出したニュースが入った。安倍さんに似ている。困ったもんだ。今ある原発を壊せとはいわないが、原発を作ることに慎重であったほうがいい。もう一度、自然エネルギーを見直し、できる範囲での省エネを試みるべきだと思う。

ぼくの家は、ウッドシェイクの屋根を20年ぶりに替え、ソーラーパネルを取り付けた。電気を電力会社に売っている。夏の暑さ対策に家の周りに木を植えた。もちろんクーラーはない。冷蔵庫やテレビも省エネタイプのものを買う。替え、電気代も少なくなってきた。カタログハウスで売っているソーラーパネルつきバッグで旅をしている。旅をしながら、携帯電話の充電をしている。

ベトカを見て、原発の恐ろしさをまざまざと感じた。チェルノブイリ原子力発電所の事故から22年が経っているにもかかわらず、森は蘇っていないかった。「キノコを食べるな」「ベリーは食べちゃダメ」と村人たちは相変わらず合言葉のように言い合っていた。それでもお年寄りは森に入り、キノコやベリーを食べ、体内被曝してしまう。なんとも悲しい話である。

世界中が地球温暖化を盾に原発推進ムードに走り出している。原発に慎重だったアメリカも原発容認へ舵取りを始めた。環境を重視してきたヨーロッパも温暖化のムードに負け、原発建設へ動く国がいくつか出てきた。日本でも福田首相が、再び原発建設に向かうアクションプランをこっそり小さな声で発表した。この文を書いている時、福田首

JCFはこれからしばらくゴメリ州のベトカ地区に丹念に関わっていくかと思っている。応援をよろしくお願いします。

歩きながら…

神谷さだ子（事務局長）



が、街をいっそう魅力的なものに駆り立てるのだった。

1991年1月の第1回訪問から数えて、JCF 90回目のベラルーシ訪問になる。スタディーツアー7回を加えると百回近くなる。JCFの17年間は、尖った石の上を裏底の薄い履物で歩いてきた位のものかもしれない。しかし、皆さんと共に積み上げてきたもの、これから更に向かわなければならぬ問題について、訪問から見えてきたことをお伝えします。

チエルノブイリにおける最初の健康被害は、放射性ヨウ素による小児甲状腺がんだった。91年、当時辺境とも言えるベラルーシ、ゴメリ州チエルスク地区の子どもたちの甲状腺検診からJCFは出発した。検査機器がまつたくない田舎から、リスクの高い子どもたちを日本に呼んで検査した。工

がんばらないレーベル第3弾の打ち合わせのためにプラハに寄った。8月の半ばにスタジオ録音する予定だったが、ピアノストとの調整があり、渡航直前に収録は30日に順延された。

プラハの街は、石畳の小道が縦横に走り、何百年もの古い家並みが続いている。雨の降る石畳の上を歩きながら、滑らかに踏みへった石の凹みが、心地

よく、往来していった人々に思いをはせずにはいられない。カレル橋の13番目だったろうか、聖者の像はツルツルに光っていた。像に触れながら願いをかけ、思いを込めたたくさんの人々が、過去から未来へと渡っていく。なだらかなつま先上がりの道の先には、何かあるのだろう。角を曲がったら、方角さえも解らなくなりそう。そんな思い

コーや血液検査機、手術機材を供与した。専門医の派遣と日本への招聘研修を繰り返した。

子どもたちの発症は、1995年をピークに今では欧米並みに下がっている。放射性ヨウ素の半減期が8日なので、今ではほとんど問題なくなっているのだ。成長期で感受性も高く、細胞分裂も活発な子どもたちにいち早く発症した甲状腺がんは、現在46歳以上の大人に発症している。そして、大人の甲状腺がんは、これから、どこまで増え続けるのか予想もできないと言われている。

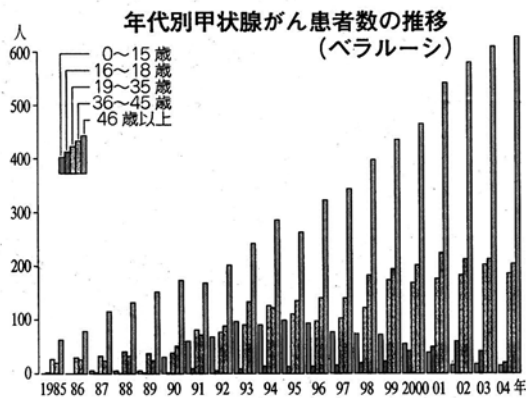
22年まえの原発事故によって、ベラルーシで二千人の子どもたちが、甲状腺がんに罹った。今、20代から30代になった彼らに注目したい。甲状腺の摘出手術をした者は、ホルモン剤を飲まなければならない。幼児からホルモン剤を飲み続けることによって、不妊に

なったり、甲状腺から肺がんへの転移も懸念される。彼らへ心理的ケアはさされているのだろうか。チエルノブイリ原発事故は遠くなっていくが、汚染地に暮らし続ける人たちの不安は続いている。

ゴメリ市の北東に位置する高汚染地、ベトカ地区病院に行った。都市部との格差が広がる地区病院の不全な設備の中で、院長をはじめとする病院スタッフが頑張っているこの病院を、JCFは応援してきた。

昨年、ナジエーリダ院長から、甲状腺ホルモン検査機器が、病院にあったら、と相談を受けた。最近4カ月間で、3人の甲状腺がん患者がベトカ地区で見つかった。1人は50代、2人が40代だという。

甲状腺がんの診断はゴメリの放射線医学人間環境センターで、治療は首都ミンスクのセンターで行なうことになっている。しかし、実際にはセンター



は子どもたちの検査で手一杯、大人が行っても、検査も受けられない。ベトカに検査機器があったら、これまでに手術をした人たちの追跡検査もできる、というのだ。

訪問前にナジエーリダ院長から送ら



ナジェージダ医師、鎌田理事長

れてきた甲状腺検査についての記録を抜粋する。

「2007年の甲状腺検査では、内分泌専門家によって910人が登録されました。がん専門医は、定期診断で「甲状腺がん」と診断された43人の患者を登録しました(そ

の内6人は、2007年に新たに診断されました。2007年の定期検診では子ども1804人を含む、8000人が超音波診断装置による検診を受けました(しかし、そのような検診が必要な子どもは、2797人います)。検診結果から、2000人以上の患者がホルモン分析診断を必要としています。しかし、ゴメリで診断を受けたのはたった533人でした。」

ロシアの空港税関で、建前一辺倒でビクともゆるがない、いやがらせをしているとしか思えない厳しい官吏に会い、もういやだ、と訪問メンバーは幾度となく感じたことがあった。しかし、また、それを超えて、温かい人間性に触れ、信頼関係を築いてきた何人もの人たちがいる。ベトカ地区病院のナジェージダ先生にも、病院経営の組織



ベトカ地区病院病棟を回るナジェージダ医師

力、スタッフへの思いやりと相互の信頼を感じる。村人たち一人ひとりの暮らしぶりをも把握していらつしやる。すばらしいカウンターパートだ。22年も前に起こった原発事故の爪あとが、歴然と残っているベトカ。この地に暮らす人々に日本での私たちが、時に添い、時には自らをかかえながら省みる事に、チエルノブイリの今後の活

動があるのではないかと思う。

JCFがイラクの劣化ウラン弾が原因と思われる小児白血病の支援を行なっている背景には、原発の問題がある。発電後の核燃料の処理もできないのに、更に原発建設が進められていく日本。

原発が稼動して排出される廃棄物から、劣化ウラン弾が造られる。核物質のゴミを、兵器に転用している。許せないことだ。イラクで何が起きているか、私たちは、ちいさな活動を通して見た現状を伝え、考えていきたい。

一年前、鉄骨で支えられた石棺(4号炉)を見てきた。石棺の壁は、いつ崩れてもおかしくないほど劣化しているように思える。今後の石棺の運命をウォッチングし続けなければならぬ。崩れ、更なる被害が起こるのか。処理が可能なまま放置されるのか。そうなつては、もはや負の遺産とさえ

いえない。生き物たちのいのちは、それぞれに、どこへ行くのだろうか。

17年の歩みを含めて語りたいと書き出したものの、現在からの報告になつてしまいました。細くとも継続する意味を、さまざまな面から、皆さんと話し合っていきたいと思っています。



幼い私が支援した国 ベラルーシを訪ねて

五十嵐 ゆみ子



ベトカ地区病院で五十嵐さんと子ども達

1986年4月26日、チェルノブイリ原発事故は起きました。そして、現在のウクライナからベラルーシ共和国へ向かって南から北へ風が放射能を運び、黒い雨が降りました。何も知らない子ども達は黒い雨の中でメーデーのために懸命に行進の練習をしていました。それが悲劇の始まりでした。あれからから22年…。

私がチェルノブイリの事故について知ったのは小学2年生の時でした。

カトリックの小学校に通っていた私は、シスターから事故の話を聞きました。「ソビエトの地域で原発事故の影響でミルクが汚染され、安全なミルクを飲めない子ども達がたくさんいます。子ども達のためにミルク缶をチェルノブイリに送りましょう」と。

私は、地球儀でソビエト連邦を探し、どんな国なのか想像し、色白の可愛いチェルノブイリの子ども達を思い浮かべながら絵を描きました。みんなで描いた絵が貼られたミルク缶が廊下にたくさん積まれた光景を今でもはっきりと覚えています。私が覚えている最初のボランティアでした。

医学部に入って国際医療に興味を持った時、真っ先に思い出したのはチェルノブイリのことでした。私達がミルク缶を送った地域がどんなところだったか、どんな被害があったのか、自分の目で確かめたいと思いました。

自身のボランティアの原点に立つて、自分のできることを考えたかったのです。そして、6年生になった今、それが実現しました。

ベラルーシ共和国の中でも汚染のひどかったゴメリ市にあるベトカ地区を訪れました。ベトカ地区は黒い雨の影響で汚染のひどいところは60キュリーから100キュリーの汚染がありまして。原発事故で40キュリー以上の汚染があった地域は危険区域となり、村人達は強制移住を強いられました。

多くの村は焼かれ、ベラルーシにある五百の村が地図から消えました。立ち入り禁止区域となり「埋葬の村」と呼ばれています。しかし、埋葬の村に今でも住み続けている人たちがいます。わがままな人という意味で「CANOCER (サマシヨール)」と呼ばれている人たちです。ベトカ地区には2つの村にサマシヨールが9人います。事故以前には千五百人が住んでい

た村です。住みなれた場所をどうしても離れることができず、自分達の身の危険を覚悟でそこに住んでいます。彼らは汚染された森にあるベリーやキノコを食べています。それどころか、採ったベリーやキノコを街に売りに行っているのです。飼っている鶏が産む卵も汚染されていることでしょう。

「汚染された場所で暮らすのは怖く



左から鎌田理事長、イリーナさん、ナジェージダ医師、五十嵐さん

ないですか？ 他の村人がみんな移住してしまつて寂しくないですか」と村の人達に聞いてみました。

「この村を離れることは考えられない。寂しいのはもう慣れた」と彼らは答えました。

村人たちはある日突然、村が汚染されているので出て行けと言われてました。村で穏やかに暮らすことが一番の幸せだった彼らは村を離れることができませんでした。自分が放射能に汚染されてもそこを離れることは出来ないのです。そして、放射能に汚染される怖さもまた実感できなかったのです。

ベトカ地区病院の院長である、ナジェージダ先生は定期的に彼らの村に足を運び検診をしています。タバコを吸いながら出てきた村人は「もう、吸わないって約束したのに」と先生にたしなめられ、ばつの悪い顔をしていました。

鎌田先生のジュネーブ講演会とヴァイオリニストの涙

鎌田先生は、ベラルーシでの医療支援を終え、8月19日に、日本人会への講演とチェルノブイリ友の会 in ジュネーブの応援のため、国際都市ジュネーブを来訪して下さいました。講演は、ジュネーブ総領事館多目的ホールで催され、スライドをお使いになり、話題はチェルノブイリ原子炉事故の犠牲者、イラク戦争、日本の医療のことなどに及びました。この重いテーマを、先生は、平易に淡々と話して下さいましたが、参加者全員、流れる涙を止めることができませんでした。そして、少しでも笑いました。みんな、平和の大切さを心に刻み帰路についた夜でした。

聴衆の中にいた岡本伸一郎さんは、ジュネーブで活躍している日本人ヴァイオリニストです。彼は、2003年にバグダッドで起きた国連事務所爆弾テロの犠牲者追悼式典で演奏することになり、打ち合わせも兼ねて、この講演会を訪れました。先生のお話の間、ずっと涙を流し続けていたそうです。講演に大きな感動を覚え、9月1日の追悼会式典では、先生のテーマ「命、平和を守りたい」という願いを彼のヴァイオリン演奏に込め、遺族の方々、各国大使、潘基文国連事務総長、国連関係者2000人の魂に届けました。

鎌田先生、すばらしい講演ありがとうございました。また、ジュネーブにいらして下さい。お待ちしております。

チェルノブイリ友の会 in ジュネーブは、世界の平和と安全について考え、同じあやまちを繰り返さないため、忘れ去られていくチェルノブイリの被災者に連帯の輪を広げて行きたいと設立されました。政治的にも宗教的にも中立で、市民の皆様のご支援のもとに、チェルノブイリ支援活動をしております。活動によって得られた寄付金は、日本チェルノブイリ連帯基金に全額送付して、被災者に届けて頂いております

チェルノブイリ友の会 in ジュネーブ 猪又 由加



ジュネーブ総領事館多目的ホールで講演する鎌田理事長



映画「ナージャの村」のナージャの甥と、五十嵐さん

ナジェーシダ先生はベトカ地区で育ちました。事故以前は保養地として人気の高い場所でした。事故が起き、人口は4万人から2万人に減り、多くの医師もまた、汚染のためにこの地区を離れました。医師が足りず当時まだ学生だった彼女が外来を手伝っていたそうです。ナジェーシダ先生は院長になって4年目で、愛するベトカのために精力的に働いておられました。

千五百人も人々が住んでいたとは思えない静けさでしたが、美しい森の中にひっそりと家が建ち、ここにある自然は村の人たちにとっては22年前と何も変わらないのかもしれないと感じました。

彼らはいったい何の犠牲になったのでしょうか？ 文明が生み出した、最高のエネルギー、原子力。そのエネルギーは何に使われたのでしょうか？

彼らの村にはそんなエネルギーは必要ではなかった。原子力を利用する先進国の人間は、放射能に汚染された地域に人々が暮らしている現実を知っているのでしょうか？ サマシヨールは村を離れません。以前と変わらない暮らしを今も続けています。ペリーは今もおいしそうな赤色で、キノコ

も緑色になったりはしません。そこにある家も木々も彼らにとっては何も変わっていないのです。

私に出来ること、それはまずこの現実を知ることでした。医学生最後の夏に、忘れられない、決して忘れてはならない貴重な旅をしました。ベトカで感じたことを忘れずに日々を過ごし、患者さんに寄り添える医師となつて、また私に出来ることを探したいと思つてます。

信大研修に同行して

ジーマさんからもらった勇氣

加藤あかね



県立こども病院で、右からセルゲイさん、ジーマさん

8月1日～12日まで、ベラルーシ共和国ゴメリ州ゴメリ医科大学4年生の下ミートリー・クラウチャンカ(通称ジーマ)さんが、来日しました。松本では、信州大学、大学附属病院の小児科・臨床検査室、学生の講義棟などを見学し、特にジーマさんの希望で、眼科の手術を見せていただきました。安曇野市の県立こども病院でも、小児外科、総合診療科、血液科をていねいに案内していただきました。ぜひ、日本に来たかった、というジーマさんにとっては、短期間でしたが、密度の濃い研修になったと思います。

日本での視察が、今後、何らかの形でベラルーシの医療に、ジーマさん個人の経験に役立つよう願ってやみません。

はじめまして、信州大学医学部5年の加藤あかねです。

ジーマさんの8月5日の信州大学医学部附属病院見学に同行させてもらいました。信州大学の先生や、スタッフの方々の、病院内を快く案内してくださる姿を見て、あらためて信州大学のよさも確認できた一日でした。しかし何より、長旅の疲れも見せずに熱心に見学するジーマさんの姿が印象的でした。めったにない海外医学部生との交流を通じて、思ったこと、感じたことを中心に、以下に述べたいと思います。

ジーマさんとお話する中で、ベラルーシと日本の医師の違いを感じる点がいくつかありました。日本の医師は7割が男性なのですが、ベラルーシでは逆に7割が女性なのだそうです。ただし、外科を選ぶのは男性で、内科は女性が多いというのは日本と同じようです。しかし、アメリカも男性医師が多いのに、どうしてそのような状況が生じるのか、もっと詳しく訊けばよかったですと思いました。

訊く、といつてもほとんどの会話は通訳してくださった山口さんとセルゲイさんを通してでした。最初は英語を話そうと思ったのですが、なかなかうまくいかなかったものですから…。おもしろかったのは、一生懸命話す英語は全然通じないのに、何で?と日本語で不思議そうな顔をしているとbecauseと返事が返ってきたことです。会話は、文法ではなくて愛嬌、ということですね。

一日忠実な通訳をしてくださった山口さんには、本当に頭が下がります。ロシア語が堪能とはいえ、医学用語は知らなければ伝えようがありませんから、翻訳が大変だったと思います。愛嬌も必要だけど、ある程度の医学英語くらいは勉強しないといけません…。

セルゲイさんは、日本に留学して長い、カムチャツカの学生です。ロシアに帰ったと思っていたのに、再びキャンパスで出会ったときには、事態が飲み込めなくてとても

びっくりしました。けれど、彼が日本にいたことがわかって、通訳してもらうことになりました。とてもおもしろい人で、日本人を日本語で論破してしまう陽気な青年ですが、山口さんと対照的に、果たして私たち双方の真意をしつかり伝えてくれたのか心配になったことがあります。

私は前日に、大衆演劇の早乙女太一の公演を観に行つて(なぜ若者が?というつこみはここでは入れないでください)、太一君のうちわを買ってきたので、セルゲイさんに、日本の有名な俳優ですと行って渡してくださいと言いました。ところが、セルゲイさんが延々と話しているなあと思つているうちに、ジーマさんが大笑いし始めました。おそらく、むこうの文化では男性が女性を演じる女形は理解しがたいのだろうとは思いましたが、セルゲイさんがいろいろと話を付け加えたのではないかと今も疑つてやみません。一方ジーマさんが10分くらいかけて真剣にセ



医学部附属図書館で、加藤さんとジーマさん

ルゲイさんに自分の体験を話しているのに、セルゲイさんはじつと聴いているだけです。何を話しているのか、とずっと待っていたのですが、セルゲイさんは最後に「病気の話です」の一言で終わりました。まったく仕方ないなあ、と思いました。それで会話が結構成り立ったところが不思議です。やっぱり会話は愛嬌ですね。

話は飛びますが、今から10年以上前に、ドギー・ハウザーという主人公が出てくるドラマを毎回欠かさず観ていました。その主人公は小さいころに白血病を克服し、医者になったのです。病気の患者さんに対してどのような言葉をかけたらいいのか、など、今でもたまにドラマのシーンを思い出すことがあります。ドギーはともやさしくて、かつこよくて、頭がよくて、患者さんの気持ちを理解してあげていて、私には憧れの存在でした。

ジーマさんとお会いしたのは8月5日の病院見学のときと、後日事務所で雑談したときでしたが、事務所では話をして、もうすぐお別れしなければならぬという時まで、ジーマさんが昔白血病を患っていたことを知りませんでした。別れる間際になって、本物の「ドギー」に会えたことに感動しながら、私は3つのことを考えました。一つは、厳しい状況に置かれながら、それを乗り越えて

いく人が確かに存在するのだということ。もう一つは大きな病気を乗り越えた人の現実の姿に直面して、医師となつたときに、闘病中の姿だけをみるのではなくて、回復した姿を目にすれば、医師自身が患者の闘病を支えるモチベーションになるだろうということです。今までの病院内での実習では、各科をまわる時間が比較的短かったため、担当する患者さんの回復を見届けられることが少なかったのです。ジーマさんには勇気をもらいました。

そして最後の一つは、本当に辛い目に遭った人は、むやみにそのことを人に話したりはしないのだということ。ジーマさんが自分の体験を話してくれたあと、私がすごい、と言ったら、一言静かに笑顔で、知っている、と返ってきました。これはセルゲイさんの誤訳ではないと信じたいです。でも何よりジーマさんの目が語っていたからきつと本当です。

忘れられない貴重な経験を、どうもありがとうございました。

ジーマさんを案内して…

いつか直接ロシア語で会話したい！

森ひろの（松商学園高校2年）



イベントでプリンチキを焼くジーマさん（左から2人目）

今年の夏休み、ゴメリ医科大学で学んでいるジーマさんの松本訪問のお手伝いをしました。

ジーマさんの背が高く、笑顔の素敵な男性でした。簡単な英語で質問したり、神谷さんの通訳で会話をしました。数日過ごしてみると、ナントナント、神谷さ

んの通訳無しでもジーマさんの言っていることが分かる時がありました。言葉は返せないけれど、目と心で会話できることがあるんだとびっくりしました。その中で占いの話になった時、日本では血液型によりA型は誠実、O型はマイペースというように言われますが、ロシアでは瞳の色で判断するということを教えてもらいました。小さな占いですが、日本とロシアの違いがわかり、興味深く感じました。

神谷さんとジーマさん、それに松本に1年半ほど在住しているカムチャッカからの留学生・セルゲイさんと私の4人で松本巡りをしました。

ある民芸品売り場で、日本のお土産を買うことになった時、一番初めにジーマさんが目を付けたのは、小さな招き猫でした。箸やお茶碗に先に目がいくだろうと予想していたので、驚きでした。もちろん箸やお茶碗も買っていました。お気に入りの招き猫も買っていました。

その後は甚平を見に行きました。何枚も試着してみました。日本人的な男性の体型とジーマさんの体型が違うので、肩幅や丈などがなかなか合うものが見つかりません。何着目かで丈が長く、肩幅が狭くて、ぴったりのものが見つかりました。私服のジーマさんも素敵ですが、鏡の前でかっこよく甚平を着こなしている姿は、お店の方も見とれるほどハンサムボーイでした。

ジーマさんからの研修お礼メール

Япония - это очень интересная и самобытная страна. В ней переплетены древние традиции и современные технологии, что делает эту страну своеобразной и индивидуальной. В Японии мне запомнились её прекрасные пейзажи: величественные горы, синие моря и горные лесные массивы. Также приятно удивляет японский народ, который всегда приветлив и доброжелателен. Когда я был в городе Мацумото, то посетил Shinshu University и больницу при этом университете. Там меня поразило высокое техническое оснащение кабинетов и чёткая организация труда работающих там людей. Я в больнице осмотрел различные отделения, лабораторию, присутствовал на офтальмологической операции, где получил большой опыт в некоторых областях медицины. Надеюсь на наше дальнейшее сотрудничество с Shinshu University, и, возможно, в будущем я смогу передать опыт Японии в медицине в мою страну Беларусь. Также я был в Children's Hospital, где осмотрел различные отделения больницы и тоже получил много полезной информации в сфере медицины. В общем, мне было очень приятно побывать в такой стране как Япония!

ドミートリー・クラウチャンカ (ゴメリ医科大学学生)

<訳>

日本—それは、とても興味深い、独特な国です。

古い伝統と新しい技術が織りなして、この国に独自のスタイルと個性を与えています。

日本について、まず、私が想い出すのは、美しい風景です。雄大な山々、青い海、山々が重なる森林。

同じように日本の人々にも驚かされました。いつも、丁寧で好意をもって接してくれました。

私は、松本市で信州大学と附属病院を訪問しました。そこで私は、高い技術設備と働く人々がきちんと組織されていることに衝撃を受けました。病院では様々な科、検査室を見学しました。眼科の手術にも立ち会いました。医療の分野での非常に大きな経験でした。将来も信州大学との協力を願っています。そして、これから出来る限り、私はベラルーシの医療現場で日本の経験を語っていきます。

こども病院にも行きました。病院のいろいろな科を見て、医療での有益な情報をたくさん得ることができました。

なんととっても私にとって、日本のような国への訪問は、とても素晴らしいことでした。

その後、カメラが見たいというジーマさんのリクエストで電気屋さんに行きました。そこでジーマさんが目をつけたものは、カメラではなく、なぜか電動マッサージ機でした。ボタン一つでツボを刺激してくれる不思議な椅子に、ジーマさんは虜になっていました。またカメラ売り場では、スマイルシャッター機能にびつくりし、ニコッと笑うとシャッターがきれるといふカメラを手に取り、私と神谷さんをモデルにして何枚もシャッターを切っていました。結局何も買わずに帰りましたが、ジーマさんにとって電気屋さんには、ゲーム感覚で楽しめたひとときだったのではと思います。

ジーマさんの滞在中に、松本中央公民館 (Mウィング) 調理実習室で「食卓を囲んでベラルーシを語ろう」というイベントも開かれました。

コールド・ボルシチやプリンチキ (ロシアのクレープ) を味わいながら、ジーマさんのお話しをお聞きしました。コールド・ボルシチはきれいなピンク色で酸味が強く酸っぱいものが好きな私はとても気に入りました。プリンチキもハムや野菜など挟んで食べる日本のクレープに似たもので、とても美味しかったです。ジーマシェフは慣れた手つきでプリンチキを焼いてくれ、ジーマさんの家庭的な一面も見ることができました。

ジーマさん
のお別れの
日、母と妹と
私の3人でお
見送りに行き
ました。ロシ
ア料理のピロ
シキを作って
お渡ししたら、
ジーマさんは「スバシーバ！」と喜んでくれました。



「英語もまだ未熟なのに、ロシア語なんて…」と親には言われますが、私はこの数日でロシア語にとっても興味を持ちました。神谷さんのように、かっこよく話したり、案内したいと何度も思いました。いつかまたジーマさんに逢った時には、ロシア語が話せるようになっていたらいいな!

とても楽しく良い経験ができたことに感謝しています。

イラク現地報告


ラマダーンが明けて



ワークショップで描いた絵を持って全員集合

イラクからのさまざまな暗い情報は、同じ根源に収束している。イラクの普通の人々とのささやかな繋がりが、この困難な時を乗り越えていく力になれるよう、頑張りたい。

チェルノブイリの子ども達の 笑顔を通して

 ロゴを使ったTシャツができました！

チェルノブイリ友の会 in ジュネーブの猪又さんがデザインしたロゴを使ってTシャツもできました。一枚 2000 円で販売します。サイズ、色等の在庫状況を事務局にお問い合わせ下さい！



信
SHINZABURO
HANPU KABAN

信三郎帆布



手提げ鞆 A、B (地色：ブルーグレー)



手提げ鞆 C (地色：生成)

◎購入お申し込み方法

- ・お名前
- ・手提げ鞆の<A、B、C>
- ・ご注文個数
- ・郵便番号
- ・ご住所
- ・連絡電話番号

を明記してJCFまでお申し込み下さい。
郵便振替用紙を同封してお送りします。お手許に届きましたら、用紙に記載された代金と送料をご送金下さい。

☆綿帆布製手提げ鞆 A
(26 × 口元 36 ・ 底 30 × 6)
定価 4,500 円

☆綿帆布製手提げ鞆 B
(29 × 口元 39 ・ 底 31 × 8)
定価 5,500 円

☆綿帆布製手提げ鞆 C
(22 × 口元 39 ・ 底 27 × 12)
定価 3,500 円

◆ JCF / 日本チェルノブイリ連帯基金
〒390-0303
長野県松本市浅間温泉 2-12-12
Fax.0263-46-6229
E-mail jcf@jca.apc.org

祖国で生きていく希望を失い始めた人々に…

加藤 文典 (JCFヨルダン事務局)



自分で描いたアクリル画を持ってご機嫌な子どもたち

この原稿が読まれるころには、ラマダーン月が明けて、イラクでは月明けのお祝いを楽しんでいるだろうか。イスラーム諸国では1年の内の1ヵ月間は日の出から日の入りまで、断食が人々の義務となる。断食による空腹の苦しみを忍ぶことで、日々の食べ物さえ手に入らない貧しい人々の苦しみを分かち合い、持てる者は持てない者に救いの手を差し伸べる。そしてイスラーム教徒同士が困難に立ち向かうために連帯感を強めるのである。そのためこの月は聖なる月とされている。

しかしイラク国内の状況は断食の義務に耐える人々の生活を、疑いなく一層苦しいものになっている。まず9月に入ってからコレラがイラクの南部都市(主にバベル)を中心に拡大し始め、感染者は現在も増え続けている。感染者数はこの1ヶ月の間で341人(内5人が死亡)にまで増えた。我々のローカルスタッフがいるイラクの最南端バスラでも18人の感染者が出ており、内1人は死亡している。感染者の65%は5歳以下の子もだ。

感染の主な原因はコレラ菌に汚染された水である。戦争から5年経過した今でも水の供給状態は悪く、イラクでは人口の半数が清潔な水にアクセスできないといわれている。電気の供給が安定しないために浄水施設が機能せず、テレビでは人々が川から水を汲んでいる様子が度々映し出されている。さらに排水溝の設備も遅々として進まず、生活廃水が行き着く先は、みんな

が水を汲むその川である。

さて清潔な水の供給が行えないのは、安定した電気供給がないためだが、イラクは常にこの問題に悩まされ続けてきた。イラク電気省大臣カリーム・ワヒードは「電気の安定した供給のためには、治安の安定が最も重要である」と先日記者会見で述べた。電気省はこれまでに千人以上の作業員を殺害や誘拐によって失っており、今後の電気省の活動を保護するために治安部隊を強化する準備があることを語った。水のためには電気が必要であり、電気のためには治安が必要である。

イラク政府とアメリカ政府はその治安の改善を強調しているが、ラマダーン月も終わりに近づいた9月28日バグダード、カッラーダ地区で大規模な爆弾テロによる攻撃で32人の命が失われた。事件が起こったのは夕方、この時間は断食が解かれる日没を待って、車や人が家路を急ぐために通りが混雑

する時間帯である。家族との団欒を楽しむにしていた多くの人々が犠牲になった。残念なことにこの爆発によって、アーヤのおばさんが巻き込まれて亡くなった。アーヤは骨肉腫により片足を切断した11歳の義足の女の子だ。アーヤの父親がバグダードにいる妻からこの訃報を聞いてこう言った。「わかっただろう。イラクは終わっているんだ。政府は何もできない。俺たちにあるのは恐怖と消耗だけだ。モスクが攻撃の対象になるから怯えて礼拝すらできない。仕事だってない。わかっただろう。これがイラクの現状だ。どうしろっていうんだ」

彼は娘のアーヤの義足の修理のために半年ごとにアンマンにやって来ている。彼女は骨肉腫に冒されたために大腿部から下をすべて切断することを余儀なくされ、今は義足で生活している。彼らが今回アンマンに来る

際、彼女と父親のビザ以外にもバグダードにいる家族のビザも申請していたが却下されてしまった。「もうバグダードでは生きていけない。できれば他の国に移住したいんだ。今度アンマンに来るときは家族みんなのビザが下りる様に助けてくれないか」

僕はこの言葉によってイラク人が祖国で生きていく希望を失い始めていると感じた。政府が治安のコントロールに失敗しているのは次の政策決定からも明らかだ。つい先日イラク政府は医師が武器を携行することを許可する決定を下している。その理由として米侵



綺麗になった義足に喜ぶアーヤ

攻後、多くの医師が脅迫や殺害に晒されたために彼らの多くが国外に去ってしまった。そうした医師をイラクに呼び戻すために、このような決定を下したというのだが、これは政府が医師の庇護について保証できないことを露呈したも同然である。仮に医師が銃の1丁や2丁を携行したところで、複数かつ、より強力な武器で襲ってくる武装勢力の前には何の役にも立たない。大体このような決定がなされる以前から武器を携行する医師は既にたくさんいるのである。

このように聖なる月ラマダーンでさえ、イラクには暗い影が落ちている。こういった悲惨な状況が続く中、絶望するイラク人を励まし、勇気付けることが重要だ。このように希望を失いそうなイラク人が国内はもちろん、国外にもたくさん存在する。ヨルダンでガンの治療を続ける家族たちも同様だ。

8月、我々はそのような家族の支援のため、ガン闘病中の子どもたちに絵を描いてもらい、その絵でチャリティ・オークションを行った。これに多大な協力をしてくれたのが、ヨルダン人の画廊オーナー、マジウドウリーンさんとその友人の画家達である。

ガン治療を続ける子どもたちの支援の一環だと伝えると、彼らは二つ返事でこの計画に賛同してくれた。まずは事務所に子どもたちを集め、オークションに出展する絵を描いてもらった。みんなアクリル画を描くのは初めてだったので、イラク人画家サッタール・ダルウィーシユ氏、そしてスーダン人画家アブドウル・カードル氏の指導のもと、元気良くキャンバスをぐちゃぐちゃにしていた。時には子どもたちに付き添ってきた母親が子どもの筆を奪い、「こう描くのよ」と横槍がはいることもあった。親子ともどもこのワークショップを楽しんだ様であ



大盛況の展覧会

る。さてチャリティ・オークション当日は現地新聞にも告知を出し、ヨルダン在住の日本人にも呼びかけた結果、予想以上の大盛況。マジウドウリーンさんはイラクの主要テレビ局にも声をかけてくれ、展覧会の様子はイラク全土に放映された。それに加えて、絵も完

売ることができ、売り上げは総額で5500ドルに達した。もちろん家族は大喜びである。売り上げはすべて参加家族に寄付された。

このチャリティ・オークションで大変なことは、一つの良いきっかけを作った点にある。子どものがん治療の

ためにアンマンに来ている家族達は高額な治療費がかかるために、家財や車を売ってなんとか生活費を工面している。さらにイラク人はヨルダンでの就労が禁止されている。働きたくても働けず、悶々と日々を過ごしている人たちが多いのである。

しかし今回のオークションで、自分たちが起こしたアクションに対してこれだけ大きな反響があったことに驚いた家族が多く、「自分たちでも何かができるんだ」という風を感じてくれたようである。家族同士で話し合いを行い、計画を立て、治療費のため資金を集める。もうだけの支援から、自立への第一歩へと変われるということだ。現在は数家族から「今度はイラク人歌手を呼んでチャリティ・コンサートをやるう！」なんていう声も上がっている。

ここまでイラク国内、そして国外に

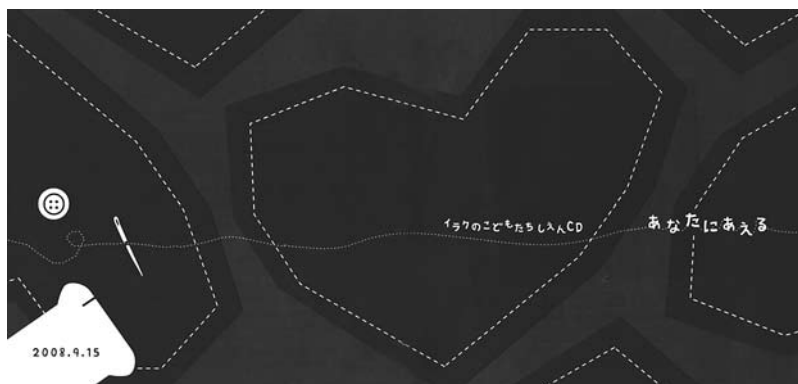
住むイラク人の現状を簡潔に述べたが、イラク問題は何もイラク人だけに限ったことではない。かつてイラク国内にいたパレスチナ人やイラン系クルド人なども、イラクにおける難民問題として大きなものである。彼らは政治的、または宗教的な理由でイラクを追われ、国外に逃げようとしたが、国境に阻まれ、行くことも引き返すこともできず、苛烈な土漠の環境の中、テント生活を強いられるのである。

そのうちのひとつ、アル・ワリード難民キャンプはイラク西部のアンバール県に位置し、シリア・イラク間の国境付近に位置する難民キャンプである。そこにはおよそ、1800人のパレスチナ人が難民生活を送っている。もとも1948年の「ナクバ（イスラエルによるパレスチナ人大迫害）」によって祖国を追われ、イラクに避難してきた人々だが、イラクでも度重なる迫害や暴力にさらされ、現在の場所に移っ



テレビ局の取材を受ける加藤さん

イラクのこどもたちしえん CD 「あなたにあえる」



- ★ 1枚：1000円（うち700円が寄付になります）
- ★ 難民の親子が作ったキーホルダーつき
- ★ 3曲入り
 - ・空に小鳥を地に花を
 - ・まつゆきそう
 - ・あなたにあえる



札幌のJIM-NETサポーターのんちゃん(高橋伸枝さん)の詩を、大嶋愛さんが歌っています。

ご希望の方には送付します。JIM-NETまでお申し込み下さい。

郵便振替用紙を同封しますので、お手許に届きましたらCD代金+送料(80円)を振り込んで下さい。

みなさんぜひ、聴いてください!!!



可愛いキーホルダーが付いています!

申込先

JIM-NET 東京事務所

〒171-0033

東京都豊島区高田 3-10-24 第2大島ビル 303

TEL/FAX 03-6228-0746

E-mail info-jim@jim-net.net

てきた。8月にここを訪れた時もキャンプの状態は悪く、夏場には50度近くの高温にさらされるイラクにありながら、ジェネレーターによる発電では、1日2時間程度の電気しか送ることができず、テントに設置されている送風機は動いたり、止まったりを繰り返していた。

また衛生状態も苛烈で、排水は大地に垂れ流され、どす黒く濁ったそれらは太陽の照り返しをうけ、悪臭を放っていた。無論このような状況下では病に苦しむ人が多い。キャンプには簡素なクリニックがあり、医師が常駐しているのだが、クリニックの医療設備では十分な診断が下せない。クリニックの手に余る患者が来たときには、救急車で3時間はかかる遠く離れた病院に移送せねばならないのである。患者は大変な負担を強いられている。現在、我々はキャンプ内のクリニックにおいて最

小限の検査と処置を行えるように、JNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の協力のもと血液検査等のための医療機器を搬送する計画を進めている。

以上の3点に焦点をおいて、最近の我々の活動とイラクの現状を簡単に述べさせてもらったが、前途は相変わらず多難である。暗いニュースばかりが目につくイラクの現状だが、希望を失わずに復興に向けて頑張っていくしかない。最後に一つ明るいニュースをお届けしたい。白血病が再発し、アンマンで治療を受けているラーラ(19歳)という女の子がいる。実は彼女のお兄さん2人が1年半前に、米軍により連行されてバスラの拘留所に拘留されていたが、そのうちの1人がつい先日開放された。母親はその喜びを泣きながらこう語った。「息子が開放されて、家に帰って

るなんて信じられなかったわ。顔を見たら多分言葉なんて出てこないでしょう」

我々にとって身近にいるイラク人は常にイラクにおいて起こる出来事と密接に関わっている人々であると改めて認識させられた。つい数日前に新聞報道で「拘留されているイラク人を解放する」という記事を見つけたときは「ひよつとして」と思ったからだ。報道で流れるニュースはよく知り合っているイラク人にリンクする。前述の爆弾テロのニュースも然りである。それだけ多くのイラク人が被害を被っているということだろう。イラクは戦争から5年経過したにも関わらず、未だにそういう世界である。

J I M-N E T イラクの現状報告と 今後の活動

佐藤真紀（J I M-N E T事務局長）



セントラル小児教育病院（バグダッド）

復興が進まない

今年は、イラク開戦5周年になりま
す。今年、イラク開戦5周年になりま
す。2008年6月頃から治安が少しず
つよくなってきました。イラク政府も
原油価格の高騰の影響もあり、石油収
入は2008年は700億ドルに達す
ると予測されています。

アメリカは2003年の侵攻時から
イラク復興のために税金の480億ド
ルを予算に充て、232億円を実際に
費やしてきました。一方、イラク政府
の2005年から2008年の終わり
までのオイルによる収入は、少なくと
も1560億ドルになると見られます
が、その2005年から2008年4
月までにイラク政府が復興に使ったお
金は39億ドル程度です。余剰金はほと
んどがNYの口座に貯蓄され、NYの

Federal Reserve Bankでは、昨年末に、

4億3500万ドルの利子をイラク政
府に支払いました。イラクにあるお金
が復興に使われない理由としては、治
安の問題と、イラク政府に予算や事業
を実施する能力がないことが指摘さ
れ、さらに「アメリカが支援を続ける
から、イラクが、甘えてしまい自分た
ちのお金を使おうともしないし、能力
を上げる必要が緊急にあることすら感
じていない」と指摘するアメリカの政
治家もいます。

その結果、イラクでは特に電気と水
の事情がわるく、未だに1日数時間し
か電気が来ない状況が続く、ラマダン
中の市民は50度を越す猛暑の中で苦し
んでいます。

安全な水にアクセスできる人はごく
わずかで、バスの産科、小児科病院
では、病院の給水システムがだめにな
り、我々に支援の要請がきて、今まで
に22回の給水（合計704トン）を行
いました。

9月末には、とうとうイラク中でコ
レラが蔓延してしまいました。二百人
がコレラに感染している疑いがあり、
少なくとも20名が死亡したと思われま
す。特に抵抗力のないガンの子どもた
ちは厳しい環境で治療を続けなくては
いけません、ガンが再発して命を落
とす子どもたちが目立ちます。



セントラル小児教育病院に支援した血液成分分析機

残念ながら、イラク政府には能力が
ありません。今後は、国際NGOやイ
ラクのローカルNGOが能力をもち、
政府のできない部分を補っていくしか
ないでしょう。

トルコ会議

1年に1度、イラクのドクターと日
本のドクターが集まり、情報交換し、
今後の支援内容を決定する大切な会議
を10月半ばに予定しています。

イラク戦争から5年たち、どのよう
にガンの子どもが増えているのか、劣
化ウランの影響をどう評価するのか、
遺伝子解析の技術をどのように指導し
ていくのかなどを話し合います。5年
間のイラクの小児ガンの発症状況と、
治療の成果を判断する絶好の機会で
す。

J I M-N E Tの支援する薬は、以
前はアンマンから調達していました

が、現在はイラク国内での購入が可能
になってきており、支援金額は月額
300万〜350万円とこのところ
減る見込みはありません。おそらく
2009年も同様の状況が続くと思わ
れます。

イラクにNGOを

このように考えていくと、イラク政
府を当てることは難しいのです。
私たちは、先日シリアに行き、そこで
ガンの子どもたちの支援を行なってい
るNGO団体BASMAに出会いまし
た。シリアは石油も取れず、アメリカ
から経済制裁を受けている貧しい国
で、百万人を越えるイラク難民が流れ
込み、財政を圧迫しています。

社会主義体制のため、国民は国立病
院で無料で治療を受けることができま
す。しかし、病院には、抗がん剤など
が不足しており、BASMAが薬を工

面して、病院に届ける活動を行なっています。貧困家庭の経済支援、院内学級へのボランティア派遣などもシステマチックに運営しています。資金調達にも長けており、シリアのお金持ちを相手に、チャリティ・ディナーを行い一晩で八百万円ほどを集める力を持っています。このような、お金の流れを作るNGOは、これからますます有効になってくるでしょう。イラク政府が国の収入を福祉に費やすことができないなら、富裕層が直接NGOなどに寄付をするようなお金の流れを作る必要があります。そこで、JIMNETでは、10月中旬にイラク人ローカルスタッフをシリアで研修させることを検討しています。

支援者をひろげる Ramadan 募金

9月1日イスラム教徒はRamadanに入りました。太陽が昇っている間、断

うに、良心のつながりを世界に向けていきたいと思えます。

難民支援事業

JIMNETは、本来業務とは別に、ヨルダン、シリアとイラクの国境付近にできた難民キャンプでの医療支援を行なってきました。このような場所にある難民キャンプの支援は誰もやりたがらず見捨てられています。日本の医師たちに、イラクの患者と接してもらうことは重要です。このところUNHCRも予算がなく、JIMNETの支援に期待が高まってきました。JCFでは、シリア国境からイラクに入った1kmのところにあるアル・ワリード難民キャンプに、メディカル・ラボを作り、現地のドクターと協力し、難民キャンプ内でも、最低限の医療が受けられる環境を整えています。また、主にスマイルこどもクリニックの



アブー・ムハンマド家で子どもと遊ぶ西村陽子さん
(アラブの子どもとなかよくする会)

食をします。貧しくて食べない人たちのことを思い、喜捨を行なうのです。JIMNETでは、Ramadan募金を行なっています。日本で暮らすイスラム教徒の人たちやイスラムの文化に理解がある人たちに呼びかけて、イラクの貧困家庭への食料配給を行なう予定です。

拠出で、二千万円ほどの難民基金を作り、キャンプの外できちんとした治療を受けなければいけない患者のための治療費や移送費に充てることになりました。

チヨコ募金

そして、2月14日はバレンタインデーです。

これはキリスト教文化だと思われ勝ちですが、愛は世界共通です。宗教に関係なく、アラブ諸国でもこの日はブレゼントを送りあったりするようです。JIMNETでは、このバレンタインデーにちなんだチヨコ募金も継続していきます。もうすっかりおなじみになった「限りなき義理の愛大作戦」これは、バレンタインの日に、高価なチョコレートを買うだけではなく、その余裕と愛を少しでもイラクの子どもたちに分けて欲しいという思いから始

よく耳にするクリスマス募金という言葉に対して、Ramadan募金というのはあまり聞きません。それは、イスラム教への偏見や無理解ということもあるでしょう。

Ramadan期間中、絶食し、イラクの子どもたちのことを考える。異文化理解とともに食を抜いた分を寄付にまわすということもできます。HPなどで、イスラム教のことや、アラブの文化なども紹介することは、平和を創るための第一歩と考えています。

8月、JIMNETはアンマンのダール・アンダという画廊と共催でチャリティ絵画展を開催。ヨルダン人やヨルダン日本人に呼びかけてチャリティに参加してもらったところ5500ドルの寄付が集まりました。日本人だけではなく、アラブの人たちも私たちに協力してイラクの子どもを助けようとしていることは励みになります。今後もJIMNETはこのよ

まったキャンペーンで、イラクの子どもたちがパッケージの絵をJIMNETのスタッフと一緒にデザインします。

来年カードのイラストは、今年に続きサマワの白血病患者、ハウラ・ジャマルちゃんの絵を使います。現地スタッフがサマワまでとび、ハウラちゃんの家を訪問をしました。サマワの現状のレポートなども同時に伝えていければと思います。



来年のカードもハウラちゃんの絵を使って

モスクワ祭り



モスクワでは、9月6日・7日は都市の日—首都建立861年記念日でした。お祭りの間、モスクワ中で5000以上のイベントが行なわれ、350万人以上のモスクワっ子と観光客が参加しました。

都市の日を祝して、芸術劇場祭典が9月7日の12時にモスクワの最も中心にある市役所で行なわれました。お祝いの言葉、たくさんの音楽、子どもたちのダンスアンサンブルが出演しました。来賓の第一列には、この日結婚した若者たちが座っていました。こうしてモスクワで、ウェディングドレスの花嫁と黒い礼服を着た花婿が同じ場所に大勢並んでいるのを見ることは、これまでなかったことでしょう。モスクワ市長は、彼らの結婚を祝い、幸福とたくさんの子どもたちの誕生を希望しました。

そして同じ日の朝、赤の広場近くでは、今年入学したモスクワの学生たちのパレードがありました。モスクワ大学からモスクワ川を外国の大学生のチームが参加して、国際的なレガッタが出発しました。優勝したのはイタリアチームでした。

ロシア政府は、本年度を家族年と広報しています。そして、これに因んだ一連の催しが行なわれました。まず初めにモスクワでは、家族舞踏会が開かれました。第6回花と建築フェスティバルや花博覧会、家族アンサンブルの地域コンクールの参加者による最終コンサートも開かれました。

JCFのスタディツアー参加者もたくさんのお土産を買うイズマイロフで、去年の9月8日には、2007年に生まれた子どもたちを祝う“私の最初の木”祭りが開かれました。この日の参加者—子どもたちと両親—は、イズマイロフの城壁に子どもたちと共に育っていくであろう菩提樹の苗木を植えました。今年もまた、イズマイロフでお祭りが開かれ、民族楽団、陶芸家、芸術装飾画やお守り製作の工芸家たちが出演しました。お祭りの参加者は歴史的、民族的な衣装を喜んで写真に撮っていました。

モスクワでは、9月6日・7日、凧フェスティバルもありました。普通モデルの凧以外に競技用操作凧、デザイナーの装飾凧、そしてもちろん日本の伝統的な六角凧が参加しました。

イリーナ・ニコラエワ（モスクワ事務局）

ベラルーシの食卓

ジーマさんのお弁当

暑い夏の最中、ベラルーシからやってきた医学生の子ジーマさんは、短い期間に日本の病院を見学され、忙しく過ごされていました。日本食も、美味しいと喜んで召し上がっていましたが、蕎麦を食べて以来、食事は洋食を選んでいると聞き、気になりました。ジーマさんが、松本を離れる日、出発は午前5時30分。タクシーで羽田空港に向かうジーマさんを送るために娘たち2人と宿に行きました。

夏の早朝、信州は、ヒヤッとして涼しいのですが、東京経由で長崎に向かうジーマさんにとっては、この先の暑さが気の毒なくらいです。せめて、お国の食べ物をとピロシキを作り、ホカホカのお弁当をお渡ししました。無事に一人で長崎に着いたジーマさんからは「アツ〜イです」との電話がありました。ピロシキを喜んでくれたのは、子どもたちと事務局のスタッフ達だったのは、不思議な気分です。

<材料>

皮：薄力粉 200g・ベーキングパウダー 小1・砂糖 大2〜3・塩 小1/4・卵 1個・バター 20g・牛乳 大3

具：合ひき肉 100g・玉ねぎ 50g・春雨 20g・塩・胡椒

<作りかた>

1. バター・砂糖・塩をボールに入れ、混ぜ合わせてから卵を加えます。木じゃくしで、クリーム状になるまで、練ります。
2. 1に温めた牛乳・ベーキングパウダーと混ぜてふるった粉を入れて、軽くこねます。耳たぶくらいの硬さに仕上がるように牛乳で加減してください。中身の具をつくる間、ぬれ布巾に包んでおきます。
3. ひき肉・みじん切りの玉ねぎを油で炒め、熱湯でもどして細かく切った春雨を加え、塩・胡椒で味を整えます。
4. 皮と具を10等分します。皮を麺棒で楕円形に伸ばします。肌のなめらかなほうを外側にし、具をのせて二つ折りにし、合わせ目に水をつけて、しっかり閉じます。端から波打つようにひだを寄せて、形を整えます（餃子のひだを大きくした形です）。
5. 160度くらいのたっぷりの油で、全体がきつね色になるまで返しながらか揚げます。具は、<キャベツ・ゆで卵・しいたけ>や<紅玉りんごのシナモン煮>などあり合わせのもので工夫し、手軽に作ってみると楽しいですね。



協働態の世紀

No.33

宮尾 彰

半年ほど前、実家の隣に不思議な夫婦が引越して来ました。ある日、トラック一台の荷物が届き、人の住む気配がし始めたのですが、挨拶はありません。結局、今も区に入らず、ゴミ置き場の当番も、春と秋の道普請も関係なく、その顔の見えない二人は生活しているようです。

「不思議な」と書きましたが、都市生活者にとつては、当世流のごく当たり前な感覚なのかもしれません。

私の子どものころには、父の生家の台所をセギが流れていた。セギの洗い場にはタワシが置いてあった。屋敷地のセギの流れは、清らかで、沢蟹や蜆が生息していた。

『新しい松代が見えてくる』（夢空間松代のまちと心を育てる会稿）

つらつら考えていたとき、タイトルにある「協働態」という言葉に出会いました。

従来の「共同」「共同体」という表現は「同」という点で他者を斉一化する面を、また「体」という仕方でも実体性を強調する面をもち、その結果、実体的自同性を意味するので用いない。むしろ、多数のペルソナが協力し出合い働きつつ、しかも常にその円居・共生を脱自する動態を表わす意味で「協働」「協働態」の表現を今後用いる。

『存在の季節』（宮本久雄 知泉書館）

たとえば、「テロとの戦い」というスローガンがありますが、誰が聞いても、正義を標榜した言説ではありますが、一体その背後に何が隠され、何が仕込まれているのでしょうか。強大な権力を持つ国家が周囲を巻き込みながら「当然、世界が我々に同調すべきだ」と脅迫しているのです。

あるいは、「ネット社会」という巨大なシステムがあります。いつでも、どこでも、誰にでも、情報は均等に提供されている。まるで、地球全体が一つの共同体であるかの

両親が生まれ育ち、私も幼少時を過ごした長野市松代町

には「泉水路」という風景が残っています。聞き慣れない言葉ですが、これは庭の池から隣の庭の池に流れて行く水路です。かつてに比べてだいぶ水量も減り、その多くが涸れてしまったようですが、この小さな城下町には、複数の民家が生活用水を共有する文化が生きていました。「セギ」というのも、灌漑用水路を意味する方言だそうです。水の共同管理は、よほどの信頼関係が無ければ成り立ちません。昔この町を成り立たせていた人間のつながりをもう一度回復しようと、町並み保存を目指すNPOも生まれました。先述の「お隣さん」との距離感を思い起こしてみても、あらためて、現在の日本で「共同体」のあり様を問うことの困難さを感じてしまいます。

ような錯覚に捕らわれますが、実のところ、その外には忘れられた辺境が厳然と存在し続けているのです。

『自分は生まれつきのアフガニスタン人だ』と語った、一人の日本人青年を忘れることはできません。

地球の裏側にある溪谷の村で、彼は現地の人々と協働で用水路を拓き、農業を広めました。彼の身が危険に曝されたとき、実に七百人という数の地元住民が、その行方を追って捜索に参加したといいます。真実かけがえの無い隣人でなければ、これは起こり得ない出来事です。

棺に眠る彼と、その前に立つて最敬礼する医師。二人の人間が、閉塞して行く世界の只中であって遙かに遠くから「協働態の世紀」を指し示しています。



ジーマの

ロシア話

◆「私はリラックスするのが大好きです。椅子に座り、3時間でも、4時間でも水槽の金魚を眺めていることができます」

「奥さんは憤慨しないのですか？」

「私が職場で何をするかは、彼女に関係ないさ」

◆ロシアのニューリッチが息子を動物園に連れてきて、視察の後、園長に会う。

「あなたの動物園はいくらですか、息子に買いたいと思うから」

「私にもっといい案があります。あなたの息子はいくらですか？動物園のために買いたいと思いますので」

◆「あなたは前の職場をなぜ辞めたのですか？」

「疲れのため…」

「何の疲れなのですか？」

「よくわかりませんが、回りの人から、私のせいで大変疲れると言われたのです」

◆医科大学のテストで先生が学生に話した。

「カンニングペーパーは、テストが終わった後捨てないでください。医者になれば、せめて最初の2年くらいは役に立つから」



—ストレリツォフ・ドミートリさんよりのアネクドート—



◆Знаете, люблю расслабиться! Вот сяду в кресло, и могу 3 даже 4 часа сидеть и смотреть на рыбок в аквариуме!

- А жена не возмущается?

- Да какое ей дело, чем я на работе занимаюсь?

◆Новый русский повел сына в зоопарк, а потом зашел к директору зоопарка.

- Сколько стоит ваш зоопарк? Я бы купил его для своего сына.

- У меня идея получше. Сколько стоит ваш сын? Я бы купил его для своего зоопарка.

◆- Почему вы ушли с предыдущего места работы?

- По причине усталости.

- Какой усталости?

- Не знаю, просто они сказали, что очень от меня устали.

◆Контрольная в мединституте. Преподаватель:

- Шпаргалки потом не выбрасывайте, пару первых лет, когда будете практикующими врачами, они вам еще пригодятся.

振替用紙のメッセージから



- ◎チエルノブイリを知らない世代に伝える事を心がけています。原発は温暖化防止にはならない事とともに。
- ◎心ばかりですが、お役に立てて頂ければ幸いです。
- ◎グランドゼロ一気に読みました。細く長く関わっていきたいと思います。
- ◎わずかですが、子どもたちのために用いて下さればと願います。
- ◎ペラルーシの食卓、ご馳走様でした。医学生ジーマさんはさわやかな青年でした。ペラルーシの将来に希望がもてそうな気がしました。
- ◎今なおチエルノブイリの放射能の後遺症に苦しむ人々の役に立てて下さい。
- ◎『グランドゼロ』を読ませて頂き、今の日本の生活に感謝と共に、自分ができることを少しずつ始めていきたいな…。
- ◎孫が増えて子どもたちを案じる気持ちが大きくなりました。一人でも多く

- ◎いつも御苦労様です。私も細く長く少額でお力添えさせて頂きます。
- ◎オリーブの木を植える、難民キャンプで亡くなった少女たちの墓前に植えたオリーブが根を張って涼しい木陰を作ってくれますように祈らずにはいられません。
- ◎鎌田先生の運動に共鳴！ 貧者の一灯です。
- ◎久しぶりにしとすと降る昔ながらの蒸し暑く湿っぽい梅雨の昨日今日です。紫陽花と良く似合っています。天も地も大変革してゆく日々の中で昔ながらの光景には安らぎがあります。バグダッドもテロが相次ぎなかなか安定しません。一日も早く子ども達の笑顔が戻りますように。
- ◎娘はハイリスクな妊娠でしたが、無事出産できました。感謝の気持ちと孫の元気な成長を祈り、世界中の子供達の幸せを祈っています。私の子供も生まれて数日間は保育器のお世話になりました。
- ◎子どもたちの幸せを祈っています。
- ◎「がんばらない」という言葉がCD歌詞の片隅にありました。うっかりお電話を切り際に「がんばってください！」といってしまうました。ゴメンナサイ。
- ◎暑くて暑くてへたっていました。この一週間ほど寒いほどの気温にやっと動けるようになりました。地球さんはダイナミックに活動しています。そのエネルギーに敬服です。
- ◎ベシヤワール会伊藤さんの悲報が伝えられています。国家間のかげひき軌轢が底にあるとは言え無法者にかかるなどそれまで積み上げてきた善意や信頼などひとたまりもありません。現地の方達も充分お気をつけください。こんな悲しいことが二度とおこりませんようお祈りします。
- ◎数年前、チエルノブイリスタディーツアーでゴメリ州立病院に来て、日本人スタッフ(?)が機器の修理に携わっ

- ました。感謝の気持ちでいっぱいです。
- ◎今日は7月2日、梅雨の中休み、今年も半分すぎました。この半年なにをしたか思い浮かばない日々の連続。その一日一日を大切に過ごせたことは有り難いこと。紫陽花は盛りをすぎ、グラジオラスが色鮮やかに。庭の花はさりげなく交代していきます。感謝。
- ◎私も昨年甲状腺手術をし、今は元気にしています。介護うつで夫に助けられながら毎日を過ごしています。昨日の朝日に認認介護が出ていてビックリしたような納得したような…。
- ◎グランドゼロを精読、お一人お一人のおはたらきに感謝です。自らの力の小さいことを恥じ入りました。もう少しがんばって次までにはと思えます。
- ◎森たかさんの紹介の記事を読んでとても嬉しくなりました。森さんのようなかたは、家庭でも職場でもPTAでも引つ張りだこですね。事務局にきてくださって本当に良かったですね。

- ていることを知って感動しました。事務局ガンバレ会費の項目はなくなつたのですか？
- (*49ページをお読み下さい。—事務局)
- ◎アフガンで一人の大切な命が失われました。イラクで活動されている皆様、どうか無理せず命だけは大事にしてください。世界に平和な日々が訪れますように。





◆ 新しい J C F 会員制度 ◆

2008 年度総会で審議された結果、会費制度が変わりました。

■ 正会員；会員総会において議決に加わることができます。

年会費 一口 10,000 円（何口でも）

（会費をお振り込み下さった方には正会員入会申込書をお送りします。

正会員としてご入会下さる方はご署名の上ご返送下さい。）

■ 賛助会員：この法人の目的に賛同して、資金協力をを行う個人及び団体

年会費 一口 3,000 円（何口でも）

★今までと同様に会費納入から一年間が会員有効期限となり、

「ランドゼロ」やイベント等のお知らせをお送りします。

特別賛助会費・事務局ガンバレ会費は無くなりました。制度変更前にお振込み頂いた方については、振込から一年間は特別賛助会員・事務局ガンバレ会員として登録させていただいております。

大勢の皆さまに会員として J C F を支えていただくように、よろしくお願ひします！

■ J C F 会費振込口座

郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

ナジェージダ 2008

★ゴメリ州立病院へ妊婦の経膈用プローベを！

ゴメリ州立病院附属産院には、4 年前に妊婦検診の超音波診断装置を支援しました。それまで、超音波診断の経験がありませんでしたが、産院のドクター達は、ミンスクで研修をつみ、素晴らしい超音波診断技術を修得しました。生まれたばかりの赤ちゃんの脳、内臓の異常を超音波で的確に捉え、治療につないでいます。今年度は、妊婦の経膈用プローベ（E721：約 150 万円）の支援を考えており、医師達も出産前診断を更に正確に行なおうと意欲的です。



★ベトカ地区病院へ甲状腺のホルモン検査機器を！

ベトカ地区病院のナジェージダ院長から、甲状腺のホルモン検査機器のリクエストがありました。

「小児甲状腺がんは 95 年をピークに、現在は欧米並みになりました。しかし、大人の甲状腺がんが増えていきます。過去 10 年間で 4 人の発症だった甲状腺がんが、この 4 ヶ月で 3 人もいました。ゴメリの放射線医学人間環境センターが、治療を担っていますが、検査の試薬が高いため、大人が検査を受けたくても断られてしまいます。この地区病院で検査できればとても助かります。甲状腺のホルモン検査機器（ELx800：300 万円）が入れば、子どもの時、甲状腺摘出手術をした青年たちの検査もできます」

☆ナジェージダへのご寄付は、2008 年 10 月 1 日現在、延べ 101 人の方から、842,371 円が寄せられています。

機器購入まで、引き続きのご協力をお願いいたします。

ナジェージダ＜希望＞振込口座

郵便振替口座番号	00520-6-10993
加入者名	ナジェージダ

こんにちは！

Здравствуйте!



熊谷宏 (くまがいひろし)

JIM-NET ではホームページの作成、JIM-NET 便りの編集、リーフレットやチラシの作成など、文字や画像の仕事を中心に、コンピュータの管理まで、NGO の常として (?) いろいろなことをやっています。最近では歌の伴奏までやるようになりました。以前は「先生」と呼ばれる仕事の傍ら JIM-NET の仕事をしていましたが、現在は JIM-NET の仕事の傍ら週 1 日だけ先生に変身しています。



大嶋愛 (おおしまあい)

音大在学中に JIM-NET に会う。

卒業後音楽の道を目指すも、イラクの子どもたちのことが頭から離れず、JIM-NET スタッフの道へ…。

結婚記念日を忘れ、仕事に没頭する新米主婦！

いつもは事務スタッフ。そして時々「歌うスタッフ」。JIM-NET チャリティーソングを作り、ピアノ弾き語りで巡業中。イラクの子どもたち支援 CD「あなたにあげる」発売中です。皆様、よろしくお願い致します。



榎野ヒカリ (かやのひかり)

JIM-NET 構成団体のひとつ、スマイルこどもクリニックのユカリ

Dr. の妹です。

この 3 月までは鳥取で中学校教員をしていました。東京に来て都会生活によく慣れてきたところです。特技はお絵かきで、するべきことはダイエット、やめるべきことは暴飲暴食です。今は慣れない会計作業に悪戦苦闘する毎日ですが、これからも少しでもみなさんのお役にたてるよう頑張ります♪

J I M — N E T 東京事務所開設



東京事務所は高田馬場の駅から神田川沿いを歩いて 4 分、下町情緒あふれるのどかな街並みの中にあります。ちょっと階段は狭いですが、中に入ると子どもたちの絵が入る人を温かな雰囲気ですて迎えてくれます。サポーターの方々やメディアの方々も気軽に訪れてください。お近くをお通りの際はぜひお立ち寄りください。

10 月 8 日～ 23 日まで、スタッフの大嶋愛と榎野ヒカリが、現地事務所へ赴き、勉強してくる予定です。

現地では、キングフセインがんセンターで、子どもたちに日本の文化を伝える緑日企画、関わる子どもたちの家庭訪問、現地 NGO の視察などを予定しています。直に子供たちとふれあうことで、JIM-NET の使命を再確認するとともに、支えてくださる方々の期待に応えられるよう頑張ります！



東京事務局スタッフ紹介



佐藤真紀 (さとうまき) 事務局長

JIM-NET を立ち上げてしまった張本人。

常日頃、丸秘作戦を考えるのが、私の仕事です。

座右の銘は、「犬も歩けば棒にあたる」

ということで、いつも歩き続けています。

戦争は女の顔をしていない

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ



戦争は女の顔をしていない
著者：スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ
訳者：三浦みどり
発行：群像社
定価：2000 円＋税

第二次世界大戦でソ連では百万人をこえる女性が兵士として戦地におもむき、多くの女性がパルチザンとして戦った。戦後、勝利に終わった戦争の栄光は男たちだけのものとなり、従軍女性たちの声は封印され、女性たちが体験した戦争の実像は知られることなく過ぎていった。誰も耳を傾けることのなかった女性たちの声を丹念に拾い集め、いまなお続く戦争の世紀の闇を照らし出すインタビュー集。

Book

図説「核」の世界地図

浅井信雄



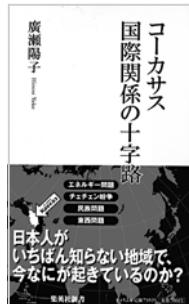
図説「核」の世界地図
監修：浅井信雄
発行：青春出版社
定価：1080 円＋税

そもそも「核」とは何か？「核兵器」は世界にどれだけあるのか？日本の「原子力発電」はこの先どうなるのか？「核拡散」「原発事故」「プルトニウム計画」「劣化ウラン」など、世界、そして日本が直面する「核」の現実を豊富な図解で解き明かす。

Book

コーカサス 国際関係の十字路

廣瀬陽子



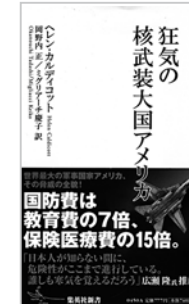
コーカサス 国際関係の十字路 (集英社新書)
著者：廣瀬陽子
発行：集英社
定価：700 円＋税

コーカサスは、ヨーロッパとアジアの分岐点であり、古代から宗教や文明の十字路に位置し、地政学的な位置や、カスピ海の石油、天然ガスなどの天然資源の存在により、利権やパイプライン建設などをめぐって大国の侵略にさらされてきた。今注目を集めるこの地域を概観する。

Book

狂気の核武装大国アメリカ

ヘレン・カルディコット



狂気の核武装大国アメリカ (集英社新書)
著者：ヘレン・カルディコット
訳者：岡野内正/ミグリアーチ慶子
発行：集英社
定価：740 円＋税

国家の基幹産業であり、最大の公共事業である軍需産業の権益を維持・拡大するため、絶えず「敵」を捏造し、天文学的な予算をつぎ込んで、大がかりな核軍備態勢を着々と構築しているアメリカ。本書は、この危険な大国の実態をあますところなく暴いている。

Book

リトル・インバー／意味のない戦争

ギヤ・カンチェーリ



リトル・インバー／意味のない戦争
作曲：ギヤ・カンチェーリ
演奏：オランダ室内合唱団他
発売：ユニバーサル・ミュージック
定価：2800 円 (税込)

グルジア出身の現代作曲家カンチェーリの最新作。「リトル・インバー」はイングランドのインバー村に捧げられた作品。第二次大戦中、インバー村の人びとは追い立てられ、対独戦で想定された市街戦の演習地となり、今もなお戦争の生々しい傷跡を残している。「意味のない戦争」はグルジアの自然や風景、文化や伝統に結びついたテキストをもとにつくられた作品。

CD

東京湾の原子力空母

原子力空母横須賀母港化を許さない全国連絡会



東京湾の原子力空母
—横須賀母港化の危険性—
編者：原子力空母横須賀母港化を許さない全国連絡会
発行：新泉社
定価：1500 円＋税

米海軍の原子力空母「ジョージ・ワシントン」が横須賀基地に配備されようとしている。この原子力空母には熱出力60万キロワットの原子炉が2基搭載されている。本書は、原子力空母の原子炉の危険性、原子力事故が起きた場合の被害を解説し、母港化をやめさせるための地元市民の活動を紹介する。

Book



第 77 号

発行日 2008 年 9 月 26 日

発行人 鎌田 實

発行所

日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原 浩

イラスト 樺ひかり

表紙デザイン 小林裕子

酒井隆志

スタッフ 神谷さだ子

布山みな子

森 たかの

協力 オフィスエム

寺島仁美

J I M - N E T

風樹光

印刷 電算印刷

■編集後記

先日、立川志の輔の落語を聞きに行った。志の輔は断と座布団の上でのしぐさで、江戸の暮らしと心をありありと伝える…。260年以上もの戦争のない平和な時代を下支えした江戸商人の生活哲学・人づきあいの知恵『江戸しぐさ』（傘かしげ、こぶし腰浮かせ、肩引きというような）が、最近見直されているらしい。江戸はそうした共生の知恵が機能する等身大の社会でもあった。今、否応なく世界とつながる社会の中に生きる私たちに「ひとしぐさ」という規範は可能なのだろうか？ 江戸の暮らしは近くて、遠い… (布山)

●特定非営利活動法人

日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)

〒390-0303

長野県松本市浅間温泉 2-12-12

TEL 0263-46-4218 FAX 0263-46-6229

E-mail jcf@jca.apc.org

Website <http://www.jca.apc.org/jcf/>

販売物紹介

Book

・「チェルノブイリからの伝言」

JCF 編 (オフィスエム) 1200 円

・ユーラシア・ブックレット No.21

「ベラルーシ 大地にかかる虹

～日本チェルノブイリ連帯基金の 10 年」

神谷さだ子 著 (東洋書店) 600 円 + 税

CD

・「坂田明／ひまわり」

2500 円

・「坂田明／おむすび」

2500 円

JCF 理事長鎌田實が立ち上げた

「がんばらないレーベル」第 1 弾、第 2 弾

・「小室等／ベラルーシの少女」

(8cm シングル盤) 1000 円

一澤信三郎帆布オリジナル靴

☆綿帆布製手提げ靴 A

(26 × 口元 36 ・ 底 30 × 6) 定価 4,500 円

☆綿帆布製手提げ靴 B

(29 × 口元 39 ・ 底 31 × 8) 定価 5,500 円

☆綿帆布製手提げ靴 C

(22 × 口元 39 ・ 底 27 × 12) 定価 3,500 円

映画パンフレット

・「ナージャの村」800 円

・「アレクセイと泉」800 円

本橋成一写真集

・「無限抱擁」

(リトル・モア) 3800 円

・「ナージャの村」

(平凡社) 2980 円 + 税

・「アレクセイと泉」

(小学館) 3400 円 + 税



Information

日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF) 活動紹介

日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF) は 1991 年 1 月に設立されました。1986 年 4 月 26 日に起きたチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故の放射能被災地へ、主に医療を中心として支援活動を展開しています。

支援開始当初のベラルーシは、深刻な経済状況で、白血病など病気の子ども達は、十分に治療を受けることができませんでした。衛生管理もできなかったために、多くの子ども達は感染症などで亡くなっていました。JCF は、現地の医師らと話し合いながらプロジェクトを組み、信州大学などの医療従事者と共に着実な支援活動を続けてきました。

そして 2004 年、活動の支援先はイラクへも広げられました。イラクでは湾岸戦争以後に白血病が急増しています。長期にわたった経済制裁後、新たに起きた戦争で極端に物資が不足、子ども達の治療もままならず、多くのいのちが失われています。



日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

イラクにおける小児がん (おもに白血病) 医療支援のためのネットワーク。医療支援を行っている NGO や関心のある医師たちが、専門性を持ち、過不足のない支援を (イラクの人々が自分たちできちんとした治療ができるようになるまで) 継続的に続けることを目指して立ち上げたネットワーク。JCF も構成団体の一員。

website <http://www.jim-net.net/>

◆ JCF 会費振込口座

正会員年会費 (1 口)	10,000 円
賛助会員年会費 (1 口)	3,000 円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

◆ JCF / イラク支援振込口座

血液成分分析機購入、医師招聘研修、薬品購入	
郵便振替口座番号	00520-0-81078
加入者名	JCF / イラク支援